世田谷村日記

石山修武

八月七日

ひろしまハウス、スケッチ。午後小笠原成光氏来室。フーテンのナーリさんである。色々と将来の計画を話し合う。私も筋金ならぬ針金入りの馬鹿であるから、同類の馬鹿と話している時が楽しい。しかし、本当にナーリさんは本物の馬鹿だな。本馬鹿である。うちの研究室は驚いた事に大半の人間がプノンペンあるいはキルティプールでナーリさんに会っているようで、あいさつしろよと一言言ったらゾロゾロ出てきた。彼等は馬鹿ではない。だからつまらない。馬鹿と言われるのが恐い類いの人間だ。つまり、ナーリさんの本馬鹿アナログ馬鹿に対して、仮面馬鹿、あるいはデジタル風間抜けとでも言おうか。デジタル馬鹿はタコツボ馬鹿。仮想現実の中にとじこもる。この人物に関してはいずれ再び長考してみたい。

八月八日

朝、ひろしまハウス・スケッチ八時過より研究室で。早朝は仕事が進む。丹羽君がＨＰでひろしまハウスのためのスケッチを公開する事にしたが、私は私のペースでやるしかない。ＩＴは恐いもので、消費の権化だな。夕方、学務を終えて、なんとも砂を噛む。寂寥感に沈む。建築を作り続ける為には先生職は鬼門か。明かに教育は設計実務よりも、文化的価値は上位なのは頭で了解しているのだが、身体、気持ちがその認識についてゆけない。

八月九日

朝十一時前、首都高速道路を猪苗代湖に向けて走っている。友岡さん一家と総勢八名。車２台の部隊だ。台風十号が彦根辺りを北東に向けて進んでいる。午後東北地方にまで進むようだ。それでも友岡さん、何が何でも行きたいのだな。

世田谷村の一階の空地の風景が何とも良い。野草がボーボーと生い茂り、人間の背丈を超えている。廃墟ならぬ廃園の趣きになった。只今十二時過栃木市に入った。十八時過ぎ庭園ホテル八景園で一風呂浴びて休んでいる。先程台風の雨の中現場で前進基地のおおよその位置決めをしてきた。山の斜面の方位とソーラーシエルターの角度の取り方が、チョッと計算通りには行かない。今年整地作業をすませて、一月から着工というスケジュールになるか。十勝のアイデアが猪苗代に侵入してきそうな気配がある。ホテルでスケッチ少々。台風は今何処にいるのかな。

八月十日

八時半ホテル出発。九時過ぎ現場に入る。長グツにナタ、カマ、ノコギリの装備。友岡さん張り切って先頭切ってヤブこぎだ。私も久し振りの沢登りの感じで体が良く動いた。鬼沼通い三回目で初めての台風一過の晴天。前身基地の位置決め。三か所の設営候補地から二ヶ所にしぼり、昼前に最終決定した。ソーラーセルシエルターの角度、猪苗代湖への眺望、水その他、理想に近い選択だったと思う。年内に整地、部品製作、来春雪融けを待って、現場作業の段取りとする。十三時猪苗代湖畔でひと休みした後帰京。夜半凄い月明かりだった。

八月十一日
朝猪苗代前進基地のアイデアをスタッフに説明。うなづいてはいるけれど、ほとんど本能的に理解し得ていないのを確信する。呼べど、応えずである。マ、仕方ない。十勝セミナー棟、変更プランの概略積算、作成する。川鉄の担当者が素人過ぎて話にならず、石山研独自に材料費その他を算定。高橋工業にも協力してもらう事になるかも知れない。メーカーの若い人間は随分力が落ちている事を実感する。身内ばかりではないのだ。

八月十二日
今日は大学は全学閉鎖でおまけに停電である。キャンパスに人影は無い。それ故、一番仕事がはかどる希有な一日なのである。十時前、エレベーターも停止しているので、階段で８階の研究室まで登る。七階位から息切れがして、我ながら情けない。一応今日は休みという事にしているが、すでに研究室には三名程が辿り着いていた。今日当然なように休むような人間は見込みが無い。異常な情熱抜きには、私の考えているような建築は出来ないのは理の当然で、そんな事くらいは解っているのは当り前の事である。その異常さというハードルが、遂に解らぬ奴、視えぬ類の人間がいるのだな。そんな時代じゃないと言われればそれ迄の事だが、私はそんな時代とは関係なく生きるぞ。しかし、こんな事考えているようでは今の風潮からは益々浮くな。
水は出ているようなのでトイレに行ってみたら完全な闇であった。手さぐりでトイレの平面図思い出しながら、ようやく便器を探り当て、なんとかクソを排出する。手さぐりでトイレットペーパーを探り当て、手さぐりで紙を切り、後始末。再び手さぐりで、ようやくの事トイレから脱出する。
闇の中のトイレは何とも哲学的場所である。トイレに行くのにマッチかライターが必要である。完全な闇は人工物の中にしかあり得ないのを再び知る。去年もこうだった。光の中で眼を閉じても、まぶたの裏にほのかな光は感じるのだから、それは闇とは異なるようだ。
空調も完全に停止しているので、開け難い窓を開けると、街の騒音がドーッと侵入してくる。人間の身体と外界との関係はまことに不思議なものだ。外界との交信、交接の中で人間は生きているのが良く解る。
十一時北海道の後藤健市氏来室。八階まで歩いて登っていただいた。十勝の建築の打合わせ。基本的にＯＫとなる。凄い建築が作れそうで嬉しい。十二時過修了。
九州から来ている野本と昼食。野本は佐賀のＷ・Ｂワークショップ第一回からの参加者で、連続して研究室の研修生として勉強している。聞けばもう二六才になったそうだ。何とかしてやりたいが、人育てだけは私の力だけではどうにもならない。机上の勉強してもデザインは上手にならない。古い言い方になってしまうけれど、自我とそれを相対化する歴史性そして社会性が三すくみになって回転してゆかざるを得ないようなところがあるのだ。まことに厄介な世界である。簡単に言ってしまえば商売人の感覚と、それをいやしむ感覚が同居せざるを得ないところがある。
しかし、そろそろ本格的な弟子を育てておかないと、私の将来も厳しいものになりそうなのだが。仕方ないか、コレも。

八月十三日
五時半起床。富士山の聖徳寺現場へ。小雨模様の暗い朝だ。帰省ラッシュで混雑しそうな最中に動くのは賢くないのは解ってい

るのだが、昼には帰れるだろう。六時出発。途中朝食をとり十時頃現場着。やっぱり10ＫＭ程の渋滞に２度程巻き込まれた。現場では鉄工所の面々が仕事をすすめていた。施主も来ていて、二、三打合わせ。十二時半修了。

昼食をとって東京へ戻る。帰りの車の中で二、三アイデアが浮かび森川に伝える。ガラスを厳しく痛めつけて、飼い慣らして使うのを試みる。サントリーニで発見した驚くべき装飾的壁の体験が生かせるかも知れない。ガラスは単純な透明性を持つ物質ではない。明らかに質量を持つ物質なのだから、その事を表現してみたい。

十六時世田谷に戻る。室内原稿書き始める。編集の長井から八月は十三日必着だぞ、と脅迫されているので逃げられない。

八月十四日

今日も雨だ。九月から世田谷村日記の形式を変えるべく八月はそのトレーニング期間だと書いてしまったが、我ながら何も出来ていない。これでは何も出来ていない日記だ。残念。残念、残念の人生だな。明日は厚生館の２回目のプレゼンテーション。擬人化された建築、表情が視る人の視点によって変化する建築、笑う建築というような事を考えている。モダニズムのデザインの基本的な性格は教養によって枠づけられ固められたハイセンス（擬似的なものではあるが）だ。それを前向きに笑ってみせるのが、この計画の狙い。岡本太郎の仕事の続きみたいなものか。建築の表情が動いて変わるような低次の事を考えているわけではない。動いているように見えてしまう主体の想像力の問題を取り出してみたいのだ。その為に別の枠のテクノロジーを使う。十七時、エスキス、その他続けて少しばかり疲れた。日用雑貨のデザインが再び進展しなくなっている。スタッフの責任ではない。私の非力だ。先程淡路の山田脩二から電話があって、瓦のテーブルウェアー今日送る旨知らされた。上海のＣ・Ｙ・ＬＥＥから電話あり、上海Ｇスタジオは十二月十五日から二十五日迄の会期で総勢四十名の規模で実施する事を決めた。盆明けから具体的な準備にかかる。上海のＣＹ事務所と上手くリンクできるかどうかが成否の要だろう。研究室は休みを取っている人間も多く、誠に静かな一日だった。

八月十五日

日本デザイン機構の機関紙ボイス・オブ・デザインの原稿書く。十七時厚生館プレゼンテーション。近藤理事長と会食。

八月十六日

十三時前原口さん宅。今泉先生に針、キュウしていただく。生まれて初めての事だ。十四時大学へ向う。明日の利根町行の準備のため。昨日はお盆だったのだ。

八月十七日　日曜日

昨夜は初体験の針きゅうの後遺症らしきでグッタリ。小林秀雄のモーツアルト読んでいるうちに眠ってしまった。何で又小林秀雄を読もうと思ったかは、解らない。この人の肉声を聞いてみたかった。七時過起床。安楽椅子でモーツアルト読み続ける。小林秀雄の近代的自我は自身を批評家、評論家として彫啄せざるを得なかったのだろうな。九時半高田馬場待ち合わせ。永江、加藤と共に利根町へ。龍ヶ崎の牛久沼湖畔のウナギ屋で昼食。佐藤さんと色々と話す。十三時過佐藤宅。十三時半親水公園集合。町の

人々二十数名。蛟もう神社近くの神池旧家二軒、泊塚等見て廻る。鎌倉期の阿弥陀仏見る。十七時過再び佐藤宅。十名程で会食。十九時過散会。取出駅迄送ってもらい、二十一時半頃世田谷村に戻る。この附合いから何を生み出す事ができるかな。モーツアルト読了。